

令和5年度

事業報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

公益財団法人 浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
①外国人市民のための多言語生活相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
②入管ワンストップ型相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
③出張相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
④法律相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑤行政書士相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑥社会保険労務士相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑦在留支援相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑧税務相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑨年金相談（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑩中国残留邦人支援（市委託：福祉総務課）	
⑪メンタルヘルス相談（市委託：精神保健福祉センター）	
⑫外国人雇用相談（市委託：産業振興課）	
⑬外国人留学生メンターによる就労・起業相談業務（市委託：産業振興課）	
⑭ソーシャルワーク研修（市委託：国際課 「多文化共生総合相談ワンストップセンター事業」）	
⑮ウクライナ避難民支援（市委託：国際課）／アフガニスタン退避者支援（自主事業）	
⑯通訳派遣（自主事業）	
2. 日本語学習支援事業	13
①浜松市地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（市委託：国際課）	
②日本語学習等支援者養成講座（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」・自主事業）	
④外国人学校への日本語教師派遣（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」）	
3. 外国につながる次世代支援事業	22
①外国人の子どもの不就学ゼロ作戦（市委託：国際課）	
②定住外国人の子ども就学促進（市委託：国際課）	
③外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」）	
4. 多文化防災事業	30
①外国人防災リーダー研修（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）	
②情報収集と効果的な情報提供のための調査研究（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）	
③モデルケースを設定した多文化防災訓練（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）	
④災害時多言語支援センター設置訓練（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）	
⑤災害時に備えたネットワークの強化（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）	
⑥災害・防災情報の提供（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）	

グローバル感覚に優れた人づくり

1. 地域共生事業（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」） 31
 - ①各地域への個別支援
 - ②地域共生自治会会議
2. 多様性を生かしたまちづくり事業 32
 - ①はままつ多文化共生 MONTH(月間)（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ②文化・スポーツ紹介（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ③地域活性化事業（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ④インターナショナル・フェスティバルの運営（市負担金：国際課 実行委員会事務局）★新規
 - ⑤ICC 浜松シンポジウム 2023 の運営（市負担金：国際課 実行委員会事務局）★新規
 - ⑥浜松市外国人材活躍宣言事業所認定事業（市委託：国際課）
3. グローバル人材の育成と活用 35
 - ①地球人教育出前講座及びコーディネート（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ②グローバル人材セミナー（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ③国際理解教育講座（自主事業）
 - ④第 14 回はままつグローバルフェア（自主事業）
 - ⑤外国人コミュニティ ライフステージ講座（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ⑥多文化体験・交流事業（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」）
 - ⑦ブリッジビルダー育成（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
4. 国際交流・国際理解事業 40
 - 1) 外国語講座（自主事業）
 - 2) 交流イベント(自主事業)
 - ①世界を知ろう！異文化理解講座
 - ②サステナブル・アクション
 - ③踊ってみよう 世界のダンス体験★新規
 - ④踊ってみよう 世界のダンス体験 Part2
5. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業） 42
 - ①HICE ボランティアバンクの運営
 - ②バディ・ボランティア活動「これからバディ」
6. 担い手の支援：国際交流活動支援事業 42
 - ①多文化共生・国際交流推進事業費助成金の交付（市補助金：国際課）
 - ②天竜地域事業（市委託：国際課 「外国人学習支援センター」・自主事業）
 - ③セミナールームの活用（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
 - ④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）
7. 情報収集・提供事業 44
 - ①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）
 - ②「はままつ多文化共生・国際交流ポータルサイト HAMAPO」の運営（市委託：国際課・自主事業）
 - ③Facebook の運用（市委託：国際課・自主事業）
 - ④Instagram の運用（市委託：国際課・自主事業）
 - ⑤HICE info メールによる情報配信（自主事業）
 - ⑥情報カウンターの運営（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）

事業実施の背景と取り組み

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、平常生活に戻ったことにより様々な活動が再開した年であった。海外から外国人が来日する動きも再開し、技能実習生や特定技能をはじめとして企業で働く人々の入国や、日本語学校や大学などの留学生の受入れが再開したことにより、2023年末の在留外国人数は過去最高の341万992人となった。

浜松市においても外国人住民数の国籍順に変化が生まれ、2023年12月にはベトナム国籍者がフィリピン国籍者を抜き第2位となった。これは2020年末以来、全国統計でベトナム国籍者が2位であった状況と同じである。

外国人材の受入をめぐる政府の取り組みも着々と進められている。政府は2018年12月に「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を策定し、それに基づき2022年に作られた「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」が毎年見直されながら、各省庁による取り組みが進められている。取り組みのうち、外国人への総合的支援を行う人材として「外国人支援コーディネーター」が検討され、国家資格化も視野に入れながら2024年度から研修が開始されることになっている。

日本語教育については、2019年に「日本語教育の推進に関する法律」が施行され、さらに「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」が2024年4月から施行される。これにより日本語教育機関の認定と登録日本語教員の認定が実施されることになる。

また、2023年6月には入管法が改正され、保護されるべき外国人を確実に保護できるように難民認定制度の運用が見直されたほか、「補完的保護対象者」の認定制度も2023年12月より施行され、ウクライナ避難民に適用され始めた。さらに、特定技能1号、2号の産業分野が2023年8月に続き2024年3月にも拡大され、特定技能1号から2号へと全ての産業分野がつながるとともにこれまで認められていなかった「自動車運送業」などにも拡大された。政府の基本的な方針として、少子高齢化社会に直面する中で外国人を社会の担い手として積極的に受入れていくことが強く打ち出されている。

そのような流れの中、浜松市およびHICEでは2023年度から「第3次浜松市多文化共生都市ビジョン」「HICE中期計画」がそれぞれ1年目の年となった。2023年度のHICEの重点事業は、「外国人雇用相談」「地域日本語教育推進体制づくり」「市民による国際交流・国際理解活動の促進」の3つであった。「外国人雇用相談」では、新規事業として「外国人メンターによる就労支援」に取り組み一定の成果を上げた。「地域日本語教育推進体制づくり」においては、2023年度から5年間の計画が盛り込まれた「浜松市地域日本語教育推進アクションプラン」に基づき、全国に先駆けて浜松版生活日本語カリキュラムの開発を行い、次年度の新しい日本語教室の展開に向けての準備が着々となされた。市民向けの国際交流についてはバディ活動を活発に展開し、福祉団体や協働センターとの連携も試行され、今後の活動の広がりが見えてきた。

また、10月から開始された消費税のインボイス制度に関しては、HICEで少しずつ準備を重ねることでスムーズに対応することができ、組織を支える総務・会計体制の重要性を改めて確認した。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

【重点】相談事業 p. 5

多言語生活相談、出張相談、法律相談、行政書士相談、社労士相談、税務相談、年金相談、中国残留邦人支援、メンタルヘルス相談、外国人雇用相談、外国人留学生メンターによる就労・起業相談、ソーシャルワーク研修、通訳派遣など

【重点】日本語学習支援事業 p. 13

浜松市における地域日本語教室の総合的な体制づくり推進、支援者養成講座、教職員多文化共生講座、地域日本語学習支援、外国人学校日本語教師派遣など

外国につながる次世代支援事業 p. 22

外国人の子どもの不就学ゼロ作戦、定住外国人就学支援教室、キャリア支援など

多文化防災事業 p. 30

外国人防災リーダー研修、災害時多言語支援センター設置訓練、災害・防災情報提供など

グローバル感覚に優れた人づくり

地域共生事業 p. 31

各地域への個別支援、地域共生自治会会議

多様性を生かしたまちづくり事業 p. 32

多文化共生 MONTH、文化・スポーツ紹介、地域活性化事業、国際フェスティバル・ICC シンポジウムの運営、外国人材活躍宣言事業所認定事業など

グローバル人材の育成と活用 p. 35

地球人教育出前講座、グローバル人材セミナー、国際理解教育講座、グローバルフェア、コミュニティ・ライフステージ講座、多文化体験、ブリッジビルダー育成など

国際交流・国際理解事業 p. 40

外国語講座、交流イベントなど

担い手の育成と支援 p. 42

ボランティアバンクの運営、助成金交付、**【重点】** バディ・ボランティアなど

情報収集・提供事業 p. 44

HICE NEWS、Facebook、Instagram、メール配信、情報カウンター
はままつ多文化共生・国際交流ポータルサイト HAMAPO の運営 など

多文化共生社会の推進

多文化共生センター

外国人学習支援センター

事業報告

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

①外国人市民のための多言語生活相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（7,053 件）

■言語別件数内訳

（件）

言語	曜日	時間	相談件数
ポルトガル語	週 6 日 月～土曜日	9：00～17：00	1,890
フィリピン語	火・木・土	9：00～17：00	944
ベトナム語	火・木・土	13：00～17：00	135
中国語	土曜日	13：00～17：00	89
スペイン語	土曜日	13：00～17：00	260
インドネシア語	土曜日	13：00～17：00	22
英語	月曜日～金曜日	13：30～16：30	961
日本語	毎日	9：00～17：30	2,749
その他			3
合計			7,053

■問い合わせ手段

（件）

来訪	電話	その他（手紙、メール等）	合計
1,567	3,007	2,479	7,053

■内容別件数内訳

（件）

内容	件数	内容	件数
入管手続	272	結婚・離婚・DV	237
雇用・労働	2,452	交通・運転免許	78
社会保険・年金	172	通訳・翻訳	319
税金	252	福祉	21
医療	140	マイナンバー	16
出産・子育て	109	ウクライナ関係	19
子どもの教育	91	コロナウイルス関係	48
日本語学習	192	手続き一般	2,150
防災・災害	35	その他	369
住宅	81		
合計			7,053

*その他は、金融、人間関係等が含まれる

②入管ワンストップ型相談コーナーの運営（他機関連携事業）（143 件）

入国管理局との連携で専門相談の窓口を開設。

毎週水曜日 9：00～12：00、13：00～17：30 相談件数：延べ 143 件

③出張相談（市委託：ワンストップセンター事業）

- ・4月25日、27日：ブラジル等各国雑貨屋等訪問
- ・6月18日：フェスタジュニーナへ出展
- ・9月26日、12月7日、2月22日：ベトナム人向け出張講習会
- ・4月8日、1月13日：フィリピン人雑貨屋訪問

④法律相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（114人）

弁護士による法律相談

毎月最終木曜日、土曜日 計22回開催

相談者数 延べ114人

協力 静岡県弁護士会浜松支部、関東弁護士連合会（10月の拡大法律相談）

⑤行政書士相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（36人）

行政書士による相談

毎月土曜日 計12回開催

相談者数 延べ36人

協力 静岡県行政書士会西遠支部

⑥社会保険労務士相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（22人）

行政書士による相談

毎月木曜日 計12回開催

相談者数 延べ22人

協力 静岡県社会保険労務士会浜松支部

⑦在留支援相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（29人）

審査管理部門在留支援による相談

毎月木曜日第一木曜日 計12回開催

相談者数 延べ29人

協力 名古屋出入国在留管理局

⑧税務相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（89人）

日時 令和6年1月27日（土）9：30～16：30

令和6年2月3日（土）9：30～16：30

内容 外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、英語）をつけてスムーズに確定申告が行えるよう支援した。

参加者 相談者89人、スタッフ・通訳4人、税理士10人

協力 東海税理士会浜松西支部

⑨年金相談（市委託：国際課 「ワンストップセンター事業」）（21人）

日時 令和5年7月20日（木） 13：00～16：00

令和5年11月16日（木） 13：00～16：00

内容 免除申請方法、将来もらえる年金額など

参加者 相談者21人

協力 東・西年金事務所

⑩中国残留邦人支援事業（市委託：福祉総務課）（184件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のための相談員を配置した。

日時 週2日 13：00～17：00（97日）

配置場所 市内区役所（南、東）

相談員 1人

相談内容 病院にかかる際の言葉の心配、介護サービス申請の支援、子弟の教育や就職など

相談件数 延べ184件

対象 7世帯9人

⑪メンタルヘルス相談（市委託：精神保健福祉センター）

心理士2人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談及び精神科等への同行通訳を行った。

■メンタルヘルス相談（カウンセリング）（506件）

日時 週5日 9:00～17:30 週2日（火・金）は12:15～20:45
件数 延べ506件（カウンセリング449件、相談57件）（前年度409件）

[カウンセリング449件の内訳]

相談者実数	154人
新規	103人
継続	113人
出身国	ブラジル433件(96.6%) ペルー14件(3%) アルゼンチン2件(0.4%)
年齢	大人390件(87%) 子ども(0才～18才)59件(13%)
時間帯	昼間347件(77%) 夜間102件(23%)

心理関連相談（多い順） ※1人につき複数の相談あり			
1	家族不和	8	孤独
2	異文化不適応	9	仕事上で人間関係
3	個人的な人間関係	10	実存の危機
4	自己認識	11	自尊心
5	子育て問題	12	自殺問題
6	トラウマ	13	いじめ
7	職業指導	14	学習困難

内容 2023年は、紛争や戦争の増加により世界は不安定化し、メンタルヘルスの増進が課題となった。人々はストレスや精神的問題に過敏となり、不安を抱えながら生活することが家族関係、社会や職場環境に大きく影響した。

今年度、新たに生じた問題点や心理的困難の中では次のようなことが目立った。

上司と部下、同僚との間のパワーハラスメントやモラルハラスメントにより、退職を選んだ人もいた。

夫婦不和により、別居や離婚が増えた。特に若くして結婚した夫婦や年の差が大きくはなれている夫婦の間で多く見られた。

父母との関係に困難を抱える若者たちのケースでは、強い拒絶を受けた、親が不在だったことに関して憤りを持ちながら育った若者もいた。満たされない気持ちを抱えたまま、現在関わっている人に期待しすぎ、不安になり、バランスを失い、必要以上の執着が見られた。

性的虐待の事例では、主に近親者の中で発生、被害者は（虐待を黙らなければならないため、または事実の真実性に関する信頼性の欠如により）強い抑圧された感情を抱くようになり、自尊心の低下、うつ病、自殺願望、人間関係の困難に陥る傾向にあった。

課題 高齢者の課題としては、身体、精神、経済、社会的な制限による自立性の低下、苦悩、うつ症状、新たな段階をクリアするための家族からのサポートの欠如などがあつた。

成果 文化適応については、ブラジルで専門職の経験を得た相談者の場合、工場労働者として適応するのが難しく、一部の人はストレスやパニックを引き起こすこともある。この状況を改善するために、心理的サポートグループを開催し、同じプロフィール（ビジネスマン、自営業者など）を持った人に対して日本の労働システムや日本の文化習慣を明確にすることができた。依存症の人のために、心理的サポートグループを開催した。参加者は依存症になった原因を理解することができた。また、健康的な生活を求めるための励ましとなった。

■同行通訳 ポルトガル語合計 335 回（ブラジル国籍 317 回、ペルー国籍 13 回、パラグアイ国籍 6 回、フィリピン国籍 2 回）担当：吉留 依頼 380 回の内 45 回キャンセル

同行通訳	依頼数（延べ）	新規				
		子ども	大人	男	女	合計
2023 年度	335 回	23 名	11 名	20 名	14 名	34 名
2022 年度	323 回	20 名	8 名	18 名	10 名	28 名

※子ども（0 才～18 才）

今年度、対応した医療機関は 13 か所で、以前対応していた 5～9 か所に比べてかなり増加した。

7 割近くが子どもの患者で、年齢は 7 歳から 12 歳が最も多く、大人は 30 代、40 代が多かった。

関係機関と連携して支援にあたったケースは領事館や障害保険福祉課と協力しながら HICE 側は母国の家族と連携を取る等の支援を行った。

近年増えつつある診察以外での通訳は、療育施設、療育手帳、障害者年金、受給者証、特別児童扶養手当の手續に関する説明、更に心理士や言語聴覚士の相談時、心理検査等があった。

患者の中には母国で治療を受けるため帰国する場合もあるが、その逆もあり、日本の発達医療機関を調べた結果、こちらで受診する決心をして来日したケースもあった。

課 題 デイケア、訪問看護、社会復帰の施設等はほとんど日本語のみの対応なので、言葉の壁がある患者の場合、本人や家族が困ることもある。

■発達に困難を抱える外国人の子どもと保護者の支援者向け研修会及び通訳者向け研修会

子どものメンタルヘルスや困っている子ども及び保護者を支援する中で必要とする心理の基礎知識を提供するようにした。

日 時 10 月 21 日（土）14:00～16:00

場 所 多文化共生センター

参加者：一般支援者：延べ 20 名（言語 日本語：9 名 ポルトガル語：8 名 スペイン語：1 名 英語：2 名）

少数言語通訳者：延べ 9 名（言語：中国語：2 名 ベトナム語：2 名 インドネシア語：2 名
ポルトガル語：1 名 英語：1 名 スペイン語：1 名）

内 容 メンタルヘルス支援の基礎と症例検討 「支援に必要な 4 つのこと」

講 師 土屋 賢治氏（浜松医科大学子どものこころの発達研究センター・大阪大学大学院連合小児発達学研究所 特任教授・精神科医）

■多言語による精神科受診時の通訳派遣

■同行通訳 合計 119 回（フィリピン語 103 回、ベトナム語 11 回、英語 0 回、インドネシア語 29 回、中国語 0 回）担当：岡田 依頼 143 回の内 24 回キャンセル

■多言語による外国人及び支援者のためのメンタルヘルス相談 合計 4 回

日本生まれ育ちのブラジル国籍の若い世代は日本語でカウンセリングを受けたい相談者の増加がみられる。日本語ができるけれど育てられた環境が日本人の人たちと異なるため、その背景が分かる多文化共生でのカウンセリングを求めるブラジル人の若者が増える傾向がある。

日時	場所	相談者数
5 月 27 日（土）14:00～16:00	多文化共生センター	1 名（フィリピン国籍）
9 月 2 日（土）14:00～16:00	多文化共生センター	3 名（フィリピン国籍 2 名、 アメリカ国籍 1 名）
11 月 25 日（土）14:00～16:00	多文化共生センター	1 名（フィリピン国籍）
2 月 10 日（土）14:00～16:00	多文化共生センター	2 名（ブラジル国籍）

■外国人の小集団活動参加によるメンタルヘルスの普及啓発講習会の開催 合計3回

11月18日(土) 14:00～16:00	いのちの電話	参加者6名	講師 吉留
<p>テーマ：浜松いのちの電話特別研修会～“聞く姿勢の再確認”</p> <p>内容：話し手のさまざまな問題や感情に直面したときの聞き手の姿勢と行動 いのちの電話 - 基本と特徴、聞き上手、自己認識等について説明し、グループのメンバーが今まで学んだこと、経験したことを含め再確認した。</p>			
12月23日(土) 14:00～16:00	多文化共生センター	参加者2名	講師 大嶋
<p>テーマ：メンタルヘルスと職業</p> <p>内容：ブラジル又は日本で就業経験を得たブラジルの大学卒業者が日本で労働者として適応することの 困難について話し合う。アイデア交換と体験談も行う。</p> <p>成果：参加者には共通して、工場勤務や日本の文化体系への適応の難しさによる不安やストレスの症状があったが、各自体験を共有することで、お互い困難を別の方法(別の角度)で理解し、職業適応における自身の困難をリフレクションできた。</p>			
2月17日(土) 13:30～15:00	多文化共生センター	参加者4名	講師 大嶋
<p>テーマ：依存症</p> <p>内容：依存症をテーマに参加者の経験やアイデア交換を実施する。 出席メンバーの困難を克服するための対処法を考え、より良い生活をおくる為の意識を高める。</p> <p>成果：参加者には依存症が共通していた。各自体験を共有することで、お互い困難を別の方法(別の角度)で見る、理解する、依存症における自身の困難を考えることができた。</p>			

■外国人向け普及啓発に関するパンフレット等の翻訳・作成

医療機関で使う問診票の翻訳(ポルトガル語2件)

問診票(～小1)

問診票(小2～)

障害福祉で使う資料の翻訳(ポルトガル語4件)

家庭等同意書

医療保護入院に際してのお知らせ

退院した患者への手紙

措置解除通知書

■フェイスブックに啓発記事を掲載(1件)

メンタルヘルス相談窓口の紹介とメンタルヘルスについてのアドバイスをフェイスブックに記載。

テーマ：「Assédio Moral」(モラルハラスメント)

⑫外国人雇用相談(市委託：産業振興課)(90人 36企業)

【求人と求職のマッチング】

浜松地域の産業を担う人材・労働力を確保するため、市内企業等を対象に外国人労働者の受け入れに関する相談及び外国人の就労に関する相談窓口を設置し、求人と求職のマッチングを行った。

相談員 3人

■全体件数

(人)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	～R4実績	事業累計R2～R5
相談件数	168	200	165	125	183	254	262	202	150	152	194	182	2237	-	-
新規求職登録者数	12	6	5	5	3	12	4	6	4	11	17	5	90	354	444
紹介件数	6	3	7	2	1	3	5	8	7	3	2	9	50	187	237
内定件数	5	1	1	1	1	1	2	4	6	1	1	6	30	61	91
新規求人企業登録数	6	2	4	4	4	1	5	3	0	2	3	2	36	142	178

■内定件数（30人）の内訳

雇用形態	人数
正社員	11
準社員	4
パート	12
その他	3
計	30

性別	人数
男	17
女	13
計	30

年代	人数
20代	17
30代	10
40代	1
50代	1
60代	1
計	30

国籍	人数
ブラジル	2
インドネシア	2
アフガニスタン	1
バングラデシュ	2
イラン	1
ベトナム	4
ウクライナ	6
オーストラリア	1
フィリピン	1
カナダ	1
台湾	1
スリランカ	3
インド	3
トルコ	1
ブルガリア	1
計	30

採用前在留資格	人数
永住者	1
定住者	2
留学	5
特定活動	9
技・人・国（※）	5
家族滞在	5
日本人の配偶者等	3
計	30

業種	人数
製造業	11
卸売業、小売業	4
情報通信業	1
サービス業	11
教育、学習支援	2
その他	1
計	30

職種	人数
研究・技術の職業	9
法務・経営・文化芸術等の専門的職業	2
保育・教育の職業	3
販売・営業の職業	2
サービスの職業	4
製造・修理・塗装・製図等の職業	5
運搬・清掃・包装選別等の職業	4
その他	1
計	30

※) 技・人・国
「技術・人文知識・国際業務」

■内定件数（30人）の内訳

	性別	年代	国籍	業種	業務	雇用形態	採用前 在留資格	採用後 在留資格
1	女	20代	バングラデシュ	サービス	研究者	正社員	特定活動	技人国
2	女	20代	インド	小売	パン製造	パート	家族滞在	家族滞在
3	女	30代	ベトナム	小売	パン製造	パート	家族滞在	家族滞在
4	女	40代	インドネシア	サービス	通訳・翻訳	契約社員	定住者	定住者
5	女	20代	ウクライナ	サービス	生花作業	パート	特定活動	特定活動
6	男	30代	トルコ	製造	品質管理	正社員	留学	技人国
7	男	20代	ベトナム	製造	海外営業	正社員	留学	技人国
8	男	20代	バングラデシュ	製造	開発技術者	正社員	技人国	技人国
9	男	20代	スリランカ	製造	開発技術者	正社員	家族滞在	技人国
10	男	30代	スリランカ	製造	開発技術者	正社員	技人国	技人国
11	女	20代	インド	製造	研究者	正社員	家族滞在	技人国
12	男	60代	ブラジル	サービス	物件巡回・軽作業	パート	永住者	永住者
13	男	20代	ブラジル	サービス	通訳・翻訳	嘱託員	定住者	定住者
14	女	30代	インド	小売	飲食物調理	パート	家族滞在	家族滞在
15	男	20代	ブルガリア	製造	部品製造	長期インターン	留学	留学
16	男	20代	ウクライナ	小売	品出し	パート	特定活動	特定活動
17	男	20代	ウクライナ	サービス	飲食物調理	パート	特定活動	特定活動
18	女	20代	ウクライナ	サービス	飲食物調理	パート	特定活動	特定活動
19	男	30代	フィリピン	製造	部品組立て	派遣	日本人の配偶者等	日本人の配偶者等
20	男	50代	カナダ	情報通信	IT機器メンテナンス	派遣	日本人の配偶者等	日本人の配偶者等
21	女	20代	ベトナム	製造	海外営業	正社員	技人国	技人国
22	男	30代	スリランカ	製造	開発技術者	正社員	技人国	技人国
23	女	20代	インドネシア	製造	開発技術者	正社員	留学	技人国
24	男	30代	ベトナム	教育・学習支援	教授	契約社員	留学	教授
25	男	30代	オーストラリア	その他	その他	正社員	技人国	技人国
26	女	20代	ウクライナ	サービス	英会話講師	パート	特定活動	特定活動
27	女	30代	ウクライナ	教育・学習支援	キッズサポート	パート	特定活動	特定活動
28	男	20代	台湾	サービス	清掃・ペットメイキング	パート	特定活動	特定活動
29	女	20代	アフガニスタン	サービス	ホール接客	パート	特定活動	特定活動
30	男	30代	イラン	サービス	語学アシスタント	契約社員	日本人の配偶者等	日本人の配偶者等

⑬ 外国人留学生メンターによる就労・起業相談業務（市委託：産業振興課）

市内への就労・起業の促進を図るため、地域で高度人材として活躍する外国人をメンター（相談員）として委嘱し、外国人留学生が就労や企業、生活等の相談を気軽に行える体制を構築した。

■外国人留学生とメンターのマッチング業務

52 件の相談機会の提供および運営管理を行った。

■交流会の開催

日時	場所	参加者	内容
5月19日（金） 16:00～17:30	静岡大学佐鳴会館	留学生 27 人 メンター 5 人	メンター紹介、メンターと留学生のグループディスカッション、雇用サポートデスク案内
8月3日（金） 16:45～18:30	オンライン	留学生 14 人 メンター 4 人	メンターと留学生のグループディスカッション
12月22日（金） 16:40～19:00	浜松市多文化共生センター	留学生 42 人 メンター 6 人 企業 5 社	企業紹介（ASTI 株式会社、共和レザー株式会社、株式会社ヤマハコーポレートサービス、株式会社ユニバンス、ローム浜松株式会社）。メンターがサポートし企業との交流（グループトーク、フリートーク）

■その他

メンター事業周知のための広報活動を適時行った。

メンターとの個別相談および交流会について、大学と連携し留学生への広報活動を行った。

⑭ ソーシャルワーク研修（市委託：ワンストップ事業）（76 人）

内 容 外国人をとりまく幅広い問題について専門知識等を習得するためのソーシャルワーク研修を行い、外国人を支援する人材を育成した。

【外部向け研修】会場：多文化共生センター

日時	内容	参加者
8月17日（木） 14:30～16:30	通訳者のマナーについて（浜松市通訳者対象） 講師：須山由佳子 （有限会社 キャリア・アップ代表取締役）	11 人
11月11日（土） 10:00～11:00	外国人を取り巻く法律相談の事例 講師：妹尾主持（弁護士 磐田リベルラ法律事務所）	22 人
2月10日（土） 14:00～16:00	通訳者のスキルアップ・ワークショップ 講師：矢野花織（北九州国際交流協会 多文化ソーシャルワーカー／一般財団法人自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー）	15 人

【内部相談員向け研修】会場：多文化共生センター

日時	内容	参加者
11月14日（火） 14:00～16:00	年金制度について 講師：年金事務所	14 人
12月2日（土） 10:00～12:00	交通事故の際の補償や弁護士相談について 講師：弁護士（妹尾佳持）	7 人
12月23日（土） 14:00～16:00	インボイス制度を含めた税金について 講師：税理士（鈴木公達）	7 人

⑮ ウクライナ避難民支援（市委託：国際課）（13人）

概要 2022年3月のロシアによるウクライナ侵攻に伴い避難してきたウクライナ避難民で浜松市に住所を定めた人に対して、スムーズに生活が送れるように、情報提供や生活物資提供、日本語学習機会の提供、交流会の実施等を行った。

対象 累計13名 支援員 ロシア語・英語のできる支援員1名を配置

内容 生活支援金の支給（1人30万円など）、日本語学習支援、公営住宅入居支援、生活物資提供、通院等支援、就労支援、交流支援など

アフガニスタン退避者支援（自主事業）（1人）

概要 アフガニスタン退避者受け入れ支援コンソーシアム（NGO等4団体により構成）から依頼を受けて、市内日本語学校で学ぶアフガニスタン退避者の生活支援を行った。

対象 1名

内容 募金を行い、集まった募金から、生活支援金の支給（100万円）、奨学金の支給（月あたり10万円）等を行った。そのほか、就労支援、交流支援などを行った。

⑯ 通訳派遣（自主事業）

件数 2件 派遣先 静岡県中部健康福祉センター・シダックス大新東ヒューマンサービス

2. 日本語学習支援事業

① 浜松市地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（市委託：国際課）

浜松市の日本語教育体制の整備・充実を図るため、文化庁事業補助金を活用し、令和元年に策定した日本語教育推進方針を基に令和2年度より地域日本語教育体制のさらなる充実を図ってきた。令和5年度は、本事業の第2フェーズの初年度であり、昨年度策定された浜松市地域日本語教育推進アクションプランに基づき、「生活 Can do」を用いた新たな浜松版日本語教育プログラムの開発を行うなど、推進施策の展開を進めた。

取組1 総合調整会議の設置

取組2・3 総括コーディネーター・地域日本語教育コーディネーターの配置

取組4 浜松地域日本語学習支援ネットワーク会議の開催

取組5 大学との連携による日本語教育人材の養成

取組6 地域日本語教育の実施

取組7 企業と連携した外国人支援者養成（やさしい日本語）

取組8 アラムナイ（学習者OB/OG）ネットワークの構築

取組9 日本語学習支援ポータルサイトの運用

取組10 浜松市日本語教育シンポジウムの開催

重点取組 浜松版生活日本語教育プログラム開発

取組1：総合調整会議の設置

構成委員 年間3回開催（2時間×3回）

氏名（敬称略）	所属及び役職
神吉宇一（座長）	武蔵野大学グローバル学部教授
坂本勝信	常葉大学外国語学部教授

澤田直子	浜松市教育委員会学校教育課外国人支援グループ主幹
嶋田和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事
丹野清人	東京都立大学人文社会学部教授
宮本康匠	MPP KOMATSU 株式会社総務部次長兼総務経理課課長
柳澤クリスティーナ	セメンチーニャ代表
山下文彦	社会福祉法人浜松市社会福祉協議会常務理事
松井由和	浜松市企画調整部国際課長
安間浩	公益財団法人浜松国際交流協会業務執行理事

第1回会議

日 時 5月30日(火) 15:00~17:00

会 場 多文化共生センター

出席者数 7人

第2回会議

日 時 8月15日(火) 13:00~15:00

会 場 オンライン会議システム「Zoom」

出席者数 8人

第3回会議

日 時 2月1日(木) 15:00~17:00

会 場 多文化共生センター

出席者数 7人

取組2・3：総括コーディネーター・地域日本語教育コーディネーターの配置

事業を総括する総括コーディネーターを配置し、NPO、企業、大学らと連携し、浜松市における地域日本語教育体制を整備するため、地域や外国人の特性等に対応した教育プログラムを構想し、地域内の日本語教室への指導・助言等を行う地域日本語教育コーディネーターを配置した。

氏名		所属
内山夕輝	総括コーディネーター 地域日本語教育コーディネーター兼任	公益財団法人浜松国際交流協会
河口美緒	地域日本語教育コーディネーター	
嶋野安沙美		

取組4：浜松地域日本語学習支援ネットワーク会議の開催

市内の日本語教室開催団体の横のつながりを深めるとともに、担い手のスキルを高めたりするために、ネットワーク会議を行った。令和5年度は地域日本語教育アクションプランの周知と令和6年度以降の取組について意見交換を行った。

開催日時	議題	参加団体数
7月27日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> 地域日本語教育とは、国の動向 浜松市多文化共生都市ビジョン、浜松市の日本語教育の現状、体制づくり事業(調査結果)、アクションプランについて グループワーク(放課後日本語補習教室について) 	12団体 21人

取組5：大学との連携による日本語教育人材の養成

日本語教員養成課程等で学ぶ大学生を今後の日本語教育の担い手と捉え、大学及び浜松市の日本語教室と連携して人材養成に取り組んだ。浜松市と常葉大学及び静岡文化芸術大学が締結している包括連携協定を基に、連携教室の開催及び教育実習の場の提供を行った。

■常葉大学（常葉大学地域連携事業）との協働による ICT を活用した授業

天竜日本語教室において、学生ら10名によるオンライン授業を月1回開催した。教師役を担う大学生が県内各地からオンラインで授業を配信した。大学生は教案づくりから実際の授業までを担い、大学教員2名（常葉大学 坂本勝信教授、谷誠司教授）が教授法について指導を行った。学習成果を披露する場として、令和6年2月に第14回はままつグローバルフェアにてワクワクドキドキ天竜 ICT クラス発表会&交流会 2024 を大学生が主体となり企画し開催した。

回	日時	授業形式	授業テーマ等	参加者数
1	6月25日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	発表会・交流会について、自己紹介・他己紹介、Googleドライブの使い方	31人
2	7月23日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチのテーマ決め、大学生のスピーチを聞く、聞き返しの表現	35人
3	8月27日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチ原稿作り(トピックの深堀)、あ いづちの表現	30人
4	9月24日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチ原稿作り(トピックの深堀)、確 認の表現	32人
5	10月22日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチ原稿の完成、聞き返しの表現	29人
6	11月19日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチ発表とポスター交流の練習、 聞き返し・あいづち・確認の表現の 復習	27人
7	12月17日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチのリハーサル、交流会の練習	28人
8	2月4日(日) 10:00～11:30	ハイフレックス	スピーチ・交流会の練習	27人
9	2月11日(日) 13:00～15:00	対面	ワクワクドキドキ天竜 ICT クラス発表会 &交流会 2024in 第14回はままつグ ローバルフェア	63人
10	3月3日(日) 10:00～11:30	オンライン	発表会とR5年度ICTクラスの振り返り (アンケート)	23人

授業形式は主にハイフレックス(Hybrid-Flexible)形式を用いて対面型+同期双方型のオンライン授業を行った。天竜日本語教室の学習者、日本語ボランティア、運営者(HICE)は教室に集まり、常葉大学の学生と教員は自宅などからオンライン会議システム(Zoom)を使い参加した。

■静岡文化芸術大学との協働による日本語教員養成課程教育実習の実施

浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)において、学生1名による実習を1ヶ月間開催した。教師役を担う大学生は授業見学、模擬授業、授業登壇を行った。大学生は教案づくりから登壇、報告までを担い、大学教員(静岡文化芸術大学 福永達士准教授)が教授法について指導を行った。

実習期間	令和5年10月20日～11月15日
人数	大学生1名(静岡文化芸術大学)

	担当教員：福永達士（文化政策学部国際文化学科准教授）	
教室	U-ToC 初級クラス	
内容	10月20日（金）	オリエンテーション&できる日本語（初級）授業見学
	10月20日（金）	模擬授業（30分×1人）
	10月25日（水）	授業登壇（30分×1人）
	11月1日（水）	授業登壇（60分×1人）
	11月8日（水）	授業登壇（1.5時間×1人）
	11月15日（水）	できる日本語（初級）授業見学 授業後1時間ほど振り返り

■常葉大学との協働による日本語教員養成課程教育実習の実施

浜松市外国人学習支援センター（U-ToC）において、学生4名による実習を開催した。教師役を担う大学生は授業見学、授業登壇を行った。大学生は教案づくりから登壇、報告までを担い、大学教員（常葉大学 坂本 勝信教授）が教授法について指導を行った。

実習期間	令和5年11月22日～12月8日	
人数	大学生4名（常葉大学） 担当教員：坂本 勝信（外国語学部グローバルコミュニケーション学科）	
教室	U-ToC 初級クラス	
内容	11月22日（水）	できる日本語（初級）授業見学
	12月1日（金）	授業登壇 実習生A（45分×2回） 授業登壇 実習生B（45分×2回） 振り返り 30分
	12月8日（金）	授業登壇 実習生C（45分×2回） 授業登壇 実習生D（45分×2回） 振り返り 30分

取組6：地域日本語教育の実施

令和5年度の浜松市日本語教室は、拠点となるU-ToCにて、日本語教師による初級クラス、中級クラス、ボランティア中心の読み書きクラスを通年開催した（中級クラスは、昨年度96時間/期から192時間/期へと拡充）。また、浜北区、南区、東区の協働センターでは、ひらがなカタカナ漢字クラスを開催し、カリキュラムに「生活Can do」を組み込み、漢字テキストを新たに開発した。また、社会参画に向けて、若者を対象とした更なるキャリアアップを行うために必要な日本語技能を学ぶ教室を開催した。

■初級クラス

協働団体：With U-Net

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	初級	107	4月10日～9月26日（月～金）	1,101人
第2期	初級	107	10月2日～3月21日（月～金）	1,362人

■読み書きクラス

協働団体：With U-Net

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	読み書き	30	5月16日～9月5日（火・木）	368人
第2期	読み書き	40	10月17日～3月19日（火・木）	554人

■中級クラス

協働団体：With U-Net

	講座名	回数	日程	受講者
第1期	中級	64	5月15日～8月21日(月～金)	180人
第2期	中級	64	10月16日～1月30日(月～金)	298人

■ひらがな・カタカナ・漢字クラス（浜北区）

業務受託団体：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

講座名	回数	日程	受講者
ひらがな・カタカナ・漢字 (週末・浜北区 浜名協働センター)	16回	5月27日～8月12日(土)	149人

■ひらがな・カタカナ・漢字クラス（南区）

業務受託団体：特定非営利活動法人浜松日本語日本文化研究会

講座名	回数	日程	受講者
ひらがな・カタカナ・漢字 (週末・南区 白脇協働センター)	16回	8月26日～11月18日(土)	117人

■ひらがな・カタカナ・漢字クラス（東区）

業務受託団体：静岡県ベトナム人協会

講座名	回数	日程	受講者
ひらがな・カタカナ・漢字 (週末・東区 蒲協働センター)	16回	12月2日～2月24日(土)	147人

■キャリアアップの為に正確な日本語を学ぼう

講師：内山夕輝（HICE・総括コーディネーター）

講座名	回数	日程	受講者
日本育ちの10代、20代、30代向け！ キャリアアップのために正確な日本語を 学ぼう（週末・多文化共生センター） ※第7回には接客研修を実施 (講師：JAL ビジネスサポート)	15回	12月2日～3月23日(土)	62人

取組7：企業と連携した外国人支援者養成（やさしい日本語）

HICE 職員が企業に出向いて、日本人従業員を対象としたやさしい日本語研修を実施した。研修には「やさしい日本語研修ワークブック(HICE 監修)」を用いた。

■企業内やさしい日本語研修第1回

日 程	4月21日(金) 13:00～15:00
企業名等	浜松科学館
参加人数	25人
講 師	内山夕輝（HICE・総括コーディネーター）
アンケート	とても良かった60%、良かった28%、未回収12% 業務に役立つ、接客に取り入れる、掲示を見直す等の感想が上がっており、行動変容のきっかけとなった。

■企業内やさしい日本語研修第2回

日 程	7月18日(火) 14:00～16:00
企業名等	(株) マルマ

参加人数	6人
講師	鈴木由美恵 (HICE)
アンケート	とても良かった 83%、普通 17% やさしい日本語は、外国人だけではなく日本人に対しても使えるとの意見があった。

取組 8 : アラムナイ (学習者 OB/OG) ネットワークの構築

市日本語教室で学んだ学習者が学習後も有機的につながりを持てる場 (ネットワーク) をオンラインにて構築する方法を検討した。U-ToC、在校生、卒業生が相互につながりを持ち、交流できるコミュニティを目指し、OB・OG らが先輩学習者の立場から後輩へアドバイス等を行うことで、日本語学習に対する動機付けや意欲の維持につなげることも目的とする。オンラインツールを選定したので、今後はツール運用に向け、クラス内での情報共有・情報交換ができるよう仕組み作りを行う。

取組 9 : 日本語学習支援ポータルサイトの運用

令和 6 年度は「浜松市 生活のための漢字テキスト」を作成し、多文化共生ポータルサイト (HAMAPO) からダウンロードできるようにした。

また、令和 4 年度に作成した浜松市外国人学習支援センターの多言語での紹介動画を南行政センター 1 階ロビーにて放映を開始した。

取組 10 : 浜松市日本語教育シンポジウムの開催

「令和 4 年度日本語能力調査及び日本語使用状況調査」の調査・アンケート結果をもとに作成された「浜松市地域日本語教育推進アクションプラン」について、内容を含め広く伝えることを目的として開催した。多文化共生社会づくりにおいて、日本語教育の環境整備は重要な手段であるが、同程度に、社会の受け入れ姿勢を涵養することが欠かせないことを伝えた。

浜松市地域日本語教育シンポジウム～ことばと共生～

日 時 令和 5 年 5 月 20 日 (土) 10:00～16:30 (2 部制) 1 部 : 10:00～12:00 2 部 : 13:30～16:30

場 所 クリエイト浜松 2F ホール

参加者 114 人

	内容	登壇者
1 部	講演「地域における日本語教育の在り方について」	増田麻美子 (文化庁国語課日本語教育調査官)
	講演「やさしい日本語 / 非母語話者は母語話者の <説明> をどのように評価するか」	柳田直美 (早稲田大学大学院教授)
2 部	浜松市における日本語能力及び日本語使用状況調査報告	内山夕輝 (浜松国際交流協会) 李皓 (静岡大学准教授)
	浜松市地域日本語教育推進アクションプラン (説明)	古橋広樹 (浜松市国際課課長補佐)
	パネルディスカッション「ことばと共生」	ファシリテーター: 嶋田和子 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事) パネリスト: 神吉宇一 (武蔵野大学教授)、アンジェロ・イシ (武蔵大学教授)、松井由和 (浜松市国際課課長)、内山夕輝 (浜松国際交流協会) コメンテーター: 増田麻美子 (文化庁国語課日本語教育調査官)

重点取組：浜松版生活日本語教育プログラム開発

「日本語教育の参照枠」を活用し、その理念を踏まえた日本語教育プログラムを開発・編成するため、プロジェクトチームによる開発会議を実施した（月1回・年10回）。3、4か月に一度、アドバイザーに会議に参加してもらいフィードバックをいただいた。

開発メンバー

日本語教師：針山摂子、下位知美、内藤理恵、（白皓）、（李長月）

コーディネーター：内山夕輝、鈴木由美恵、河口美緒、嶋野安沙美

アドバイザー：金田智子（学習院大学文学部教授）、嶋田和子（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事）、谷誠司（常葉大学外国語学部教授）、坂本勝信（常葉大学外国語学部教授）

②日本語学習等支援者養成講座（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」）

■日本語ボランティア養成講座（553人）

地域における日本語学習支援で必要とされる知識を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：はままつ国際理解教育ネット、With U-Net、NPO 法人おおさかこども多文化センター、NPO 法人フィリピンナガイサ、そらの会、KSC 子どもサポーターズクラブ、南の星小放課後勉強室、浜松市教育委員会

全16回／各期 年2期

	期間	受講者
第1期	6月9日～10月6日	延べ270人
第2期	11月27日～3月11日	延べ283人
合計		553人

プログラム：日本語文法の入口、異文化理解体験、外国語学習体験、浜松市における外国人児童の現状、ボランティア体験実習、やさしい日本語実践体験（U-ToC 日本語教室の学習者と防災訓練を体験）

■日本語ボランティア実地研修（110人）

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。

教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。

見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ35人
日本語教室・中級クラス	延べ0人
日本語教室・読み書きクラス	延べ75人
合計	延べ110人

■日本語学習支援者スキルアップ講座（71人）

日本語学習支援者を対象とした日本語教育に関する知識を学ぶ講座。全6回

回	日時	内容	講師	受講者
1	6月29日（木） 13:30～15:00	Can do とは？ 上位の到達目標と下位の到達目標 CEFR と「日本語教育の参照枠」 例文収集のポイント等	谷誠司（常葉大学 外国語学部教授）	14人
2	8月24日（木） 13:30～15:00	【説明書を読むこと】例文共有		13人
3	8月24日（木） 15:00～16:30	【通信文を読むこと】例文共有		13人

4	10月26日(木) 13:30~15:00	【情報や議論を読むこと】例文共有	10人
5	10月26日(木) 15:00~16:30	【世情を把握するために読むこと】 例文共有	10人
6	12月21日(木) 13:30~15:00	【包括的な読解】例文共有 モデル例文比較・まとめ	11人
合計			71人

■教職員多文化共生講座(91人)

保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の教職員を対象とした夏期集中講座。

協力：浜松市教育委員会「外国人児童生徒指導リーダー研修会等」

1, 2, 3回 8月2日(水) 9:15~12:15

4回 8月29日(火) 13:30~16:30

回	時間	内容	講師		受講者
1	9:15~ 9:45	外国人学校(ムンド・デ・アレ グリア学校)の見学	松本雅美	ムンド・デ・アレグリア 学校校長	19人
2	9:55~ 10:55	次世代へつなぐ思い~ブラジル 移民劇を通して~	柳澤クリス チーナ	セメンチーニャ(ブラジ ル人ママの会)代表	19人
3	11:05~ 12:15	「ひょうたん島問題」から多文 化共生を考える	河口美緒	浜松国際交流協会	19人
4	13:30~ 16:30	子どものことば~母語・継承語 の大切さを知り、現場へ活かす ~	鈴木崇夫	愛知淑徳大学 初年次教 育部門 助教	34人
合計					91人

③地域日本語学習支援事業(市委託：国際課「外国人学習支援センター事業」・自主事業)

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催。

参加者数 13人「放課後学習支援団体情報交換会」

回	日時		参加団体	参加者
1	3月13日 (水)	14:00~15:30	浜松市教育委員会、浜松国際交流協会、放課後学習 支援団体(そらの会、KSC子どもサポーターズクラ ブ、浜名小放課後勉強室、南の星小放課後勉強室、 龍の会)	13人

■地域日本語学習コーディネート業務

これまで日本語ボランティア養成講座修了生による自主グループの立ち上げを支援するとして「おしゃべりタイム」の支援を行ってきたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大のため活動を休止していた。今年度は今後の活動について検討するため、6月22日に「七夕」(参加者18人)、9月5日に「祭り」(参加者17人)、1月31日には「年末年始の過ごし方」(参加者16人)をテーマに試行した。

■日本語学習支援ボランティアコーディネート

日本語ボランティア養成講座修了生の活動支援等 35件

日本語ボランティア養成講座では、修了生を対象に丁寧な活動支援を行ってきた。市内のボランティア団体に養成講座修了生を紹介したり、両者のマッチングに同席したりすることで、修了生が

スムーズに活動を始められるようコーディネートした。

■日本語コーディネート（自主事業）

企業への日本語教師募集協力	6 件
個人への日本語プライベートレッスンマッチング	1 件
公立学校または市内ボランティア団体	3 件
市内公立中学校での J-CAT(日本語テスト)実施支援	1 校実施 2 回

■高校生への日本語支援事業（自主事業）

【日本語学習支援教室】

派遣先 静岡県立浜松工業高等学校(定時制) (4月20日～6月15日 計7回。以降は、静岡県教育委員会外国人生徒みらいサポート事業へ引継ぎ)

対象者 5人

派遣者 日本語教師1人

【日本語支援アドバイザー派遣】

派遣先 静岡県立浜松大平台高等学校 (4月17日～2月29日)

派遣者 HICE 日本語総括コーディネーター1人

■地域における日本語学習支援業務

地域や外国人コミュニティとの連携により、ニーズを踏まえた日本語学習支援教室を開催。

○フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）(573人)

協力 NPO 法人フィリピンナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)		
			サポーター	初期適応クラス	寄り添いクラス
5月27日～3月16日 (全27回)	土曜日	13:30～15:30	148人	58人	367人

令和4年度と比べ実施回数を減らしたこと、呼び寄せ児童生徒が少なかったことにより延べ人数は減少したが、浜松市内に点在しているフィリピン人児童生徒が仲間同士で集まれる場所＝居場所を提供することができた。また、フィリピン人保護者からの相談にできる限り対応した。進路についての相談が多く、高校に進学することができなかつた生徒もいたため、今後の進路についての相談もあった。

○ベトナム人の子ども学習支援（ティントゥオン教室）(1,041人)

協力 静岡県ベトナム人協会

会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)		
			未就学児	小学生	中学生
5月17日～2月7日 (全32回)	水曜日	18:00～20:00	88人	854人	99人

教室には未就学児～中学生が参加し、プリントや学校の宿題などに取り組んだ。未就学児や低学年の子どもを主な対象として、学習の前には大型絵本や紙芝居を用いた読み聞かせ活動を行った。年に3回保護者会を実施し、教室に参加する際の注意を伝えたり、教室に対する要望を聞いたりした。

○浜北日本語教室 (1,151人)

協力 浜北国際交流協会

会場 浜北文化センター

期間	曜日	時間	会場	参加者 (延べ)
4月1日～3月30日 (48回)	土曜日	13:00～16:00	浜北文化センター	1,001人

外国人による日本語学習成果発表会

開催日 令和6年1月28日(日) 13:00～16:00

会場 浜北文化センター 大会議室

出場者 8人(学生の部4か国6人、一般の部2か国2人) 全員に「奨励賞」を授与

来場者 約150人

④外国人学校への日本語教師派遣事業(市委託:国際課 「外国人学習支援センター事業」)

外国人学校児童生徒への日本語学習支援のため、市内に所在し、本国政府の認可のある外国人学校に対して日本語教師を派遣する。

授業実施回数(単位:回)

学校名	教員数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	学校計
ムンド・デ・アレグリア学校	年間6人	112	97	112	109	90	95	114	115	66	66	110	91	1,177
イーエーエス伯人学校	年間3人	154	149	184	180	144	149	173	185	53	45	110	167	1,693
エスコラ・アウカンセ	年間2人	60	59	77	64	63	69	67	68	43	25	63	69	727
計		326	305	373	353	297	313	354	368	162	136	283	327	3,597

3. 外国につながる次世代支援事業

①外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業(市委託:国際課)

調査対象者となった就学年齢の外国にルーツをもつ子供に対して、訪問等で就学状況を確認し、状況に応じて就学につなげるための支援を実施した。

■就学状況の把握

	調査項目	回数	対象
A	新小学校1年生	1回(第1回調査)	4月に小学校1年生相当の年齢になる外国籍の子供
B	次年度新中学校1年生	1回(第4回調査)	次年度4月に中学校1年生相当の年齢になる外国籍の子供
C	転入者	6回	新たに浜松市に転入してきた外国籍の子供
D	退学者	6回	公立小学校、外国人学校等を退学した外国籍の子供

調査対象者数

(人)

	調査項目	調査対象者	訪問調査前に就学や異動等が確認された者	訪問調査対象者
A	新小学校1年生	30	10	20
B	次年度新中学校1年生	30	25	5

C	転入者	96	37	59
D	退学者	44	10	34
合 計		200	82	118

調査方法

訪問回数（不在含む）	253 回
訪問により面会できた件数	96 件
訪問時は不在だったが、差し置き資料により連絡があった件数	20 件
外国人学校・教育総合支援センターへの照会件数	95 件

■令和5年度に行った6回の調査の結果

項目				報告時点
調査 対象者 (200人)	浜松市に 居住 (144人)	就学 調査及び支援等 により、調査期間中 に就学が確認でき た者(90人)	公立小学校	21人
			公立中学校	9人
			私立小学校	1人
			私立中学校	1人
			市内の外国人学校	56人
			市外の外国人学校	2人
		就学が確認できな かった者(34人)	就学支援教室・学習施設等に在籍あり	13人
			就学支援教室・学習施設等に在籍なし	21人
		その他対象外案件 (20人)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階	2人
			母国の通信教育を自宅学習している者	16人
			母国や外国人学校等で中学を卒業した者	2人
			長期休暇等で来日(母国で在学中)	0人
		居住実態なし 訪問調査等により、転居・転出・ 帰国が確認できた(56人)	居住実態なし(空室・別住民在住)	26人
			親族等から一時帰国を確認した者	24人
国内外への転出	6人			
合計				200人

【就学が確認できなかった者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	27人
フィリピン	1人
ペルー	2人
その他	4人
合計	34人

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	11人
2年生	3人
3年生	4人
4年生	2人
5年生	0人
6年生	3人
合計	23人

中学校	人数
1年生	5人
2年生	2人
3年生	4人
合計	11人

小・中学校合計 34人

■ケースに応じた支援

《令和5年度に行った6回の調査で就学が確認できなかった者の現在の状況》

(支援・継続調査・就学支援教室への在籍確認等による動向：令和6年3月31日現在)

項目			年度末時点	
就学が 確認で きな かった 者 (34人)	浜松市に 居住 (23人)	就学 継続調査及び 支援等によ り、就学に結 びついた者 (12人)	公立小学校	3人
			公立中学校	1人
			私立小学校	0人
			私立中学校	0人
			市内の外国人学校	8人
			市外の外国人学校	0人
			実質不就学 (11人)	就学支援教室・学習施設 等に在籍あり (5人)
	就学支援教室等に通っている (予定含む)	1人		
	就学促進教室・学習施設 等に在籍なし (6人)	学校や支援教室に通っておらず、就学予定なし、帰国予定なし		2人
		就学予定あり		4人
		転出予定		0人
	その他対象外 案件 (0人)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階		0人
		母国の通信教育を自宅学習している者		0人
		母国や外国人学校等で中学を卒業した者		0人
		長期休暇等で来日(母国で在学中)		0人
居住実態なし 継続訪問調査等により、転居・転出・帰国が確認できた者(11人)	居住実態なし(空室・別住民在住)		4人	
	親族等から一時帰国を確認した者		3人	
	国内外への転出		4人	
合計			34人	

■実質不就学(全体)が継続した者の内訳 (令和6年3月31日現在) *前年度からの継続者7名含む

項目			人数
実質 不就学 (18人)	就学支援教室等 に在籍あり(11人)	本国政府認可外の学習施設に通っている	9人
		就学支援教室等に通っている(予定含む)	2人
	就学支援教室等 に在籍なし(7人)	学校や支援教室に通っておらず、就学予定なし、帰国予定なし	3人
		就学予定あり	4人
		転出予定	0人
全体の合計			18人

【不就学者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	14人
フィリピン	0人
ペルー	2人
その他	2人
合計	18人

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	2人
2年生	3人
3年生	2人
4年生	3人
5年生	0人
6年生	2人
合計	12人

中学校	人数
1年生	1人
2年生	1人
3年生	4人
合計	6人

3) 不就学の期間

期間	人数
半年未満	5人
半年～1年未満	4人
1年～2年未満	3人
2年～3年未満	1人
3年以上	5人
合計	18人

小・中学校合計 18人

実質不就学者への支援

- ・不就学判明後も家庭訪問等で状況を確認
- ・教育総合支援センターや学校（現場）への同行
- ・外国人学校や就学支援教室の案内や同行
- ・関係機関や専門機関との連携

（経済的な問題だけでなく、保護者の無知・無関心・無理解により就学の必要性を感じていないケース、日本の学校に馴染めないことや日本語に対する不安がみられるケース、発達障害・学習障害・精神障害により就学に対する不安がみられるケース、ネグレクトやDVの虐待が疑われるケース、ヤングケアラーなどの困難事例では、関係機関へ相談し、今後の支援について関係者らで話し合う場を設けた。）

■外国人学校等スクールカウンセラー派遣（100回）

発達相談支援センター（ルピロ）と連携し、外国人学校等にカウンセラー（ブラジルの幼児教育と心理の専門家）の派遣を行った。

これまでのカウンセリングにおいて、複雑な家庭環境により子供の情緒が安定せず、そのため友人関係や学習面に影響がみられるケースが明らかになっている。また、子供が抱えている問題は複合的であり、家族間の問題、ネグレクトやDVなどの虐待、発達障害や学習障害などの発達上の特性があること、家計が厳しいこと、ヤングケアラーなど、子供たちが様々な状況におかれていることが明らかになっている。これらの子供たちが不就学にならないようにするには継続したカウンセリングが必要である。

また、発達相談支援センター（ルピロ）と多文化共生センターにて、年間3回の連絡会を実施し、専門的見地から適切な対処法などについてアドバイスをいただいた。

派遣者：デヴィデ・ヴァンデル・ルイス（ブラジルの幼児教育と心理の専門家）

メンデス・大塚・ロシャナ（ブラジルの心理学者）

派遣先

学校名	実施スケジュール	実施回数	参加人数
エスコラ・アウカンセ	火曜日 9:00-13:00 /11:00-15:00	45回	171人
ムンド・デ・アレグリア学校	水曜日 9:00-13:00	38回	114人

イーエーエス伯人学校	水曜日	14:00-16:00	8回	285人
コレジオ・アルテルナチバ	金曜日	9:00-12:00	11回	14人
ラピス・デ・コル	金曜日	13:30-16:30	8回	17人
家庭訪問	-	2時間	5回	2人
合計			100回	603人

スーパーバイザー：高橋 祥二氏（浜松市発達相談支援センター所長）

連絡会議	会場	実施スケジュール	実施回数
	多文化共生センター	水曜日 14:30-16:30	3回

●外国人学校等カウンセリング参加人数

(人)

学校	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計	
ア ウ カ ン セ エ ス コ ー ラ ・	相 談	学校	11	1	0	1	0	0	5	5	23
		子供	24	11	27	36	2	2	31	24	157
		保護者	8	1	1	4	0	0	8	2	24
	子供の観察		1	0	0	0	0	0	1	0	2
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		44	13	28	41	2	2	45	31	206
ア レ グ リ ア 学 校 ム ン ド ・ デ ・	相 談	学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		子供	7	13	71	41	2	8	8	15	165
		保護者	3	6	17	11	0	2	4	4	47
	子供の観察		1	0	1	0	0	0	0	0	2
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		11	19	89	52	2	10	12	19	214
校 イ ー エ ー エ ス 伯 人 学	相 談	学校	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		子供	2	0	4	1	0	0	0	132	139
		保護者	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	子供の観察		129	0	0	0	0	0	0	19	148
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		132	0	4	1	0	0	0	153	290
ア ル テ ル ナ チ バ コ レ ジ オ ・	相 談	学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		子供	1	2	7	2	0	0	2	4	18
		保護者	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	子供の観察		0	0	0	0	0	0	1	1	2
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		1	2	7	2	0	0	4	5	21

ラピス・デ・コル	相談	学校	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		子供	0	0	2	1	0	0	2	4	9
		保護者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子供の観察		0	0	0	0	0	0	0	8	8
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		0	0	2	1	0	0	2	13	18
家庭訪問	相談	学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		子供	0	4	4	4	0	4	0	0	16
		保護者	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	子供の観察		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		0	4	4	5	0	4	0	0	17
全体	相談	学校	11	1	0	1	0	0	5	8	26
		子供	34	30	115	85	4	14	43	179	504
		保護者	12	7	18	16	0	2	13	6	74
	子供の観察		131	0	1	0	0	0	2	28	162
	専門機関を紹介した者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		188	38	134	102	4	16	63	221	766

備考：

- ①学習障害の疑い／②学校生活習慣の問題（暴力的、ルールが守れない、社会性に欠ける、強情的）
 ③精神障害の疑い／④家族関係の問題／⑤いじめ/DV/依存症／⑥自殺願望/自傷行為
 ⑦疾患/特定疾患／⑧その他

② 定住外国人の子供の就学促進（市委託：国際課）

外国籍の子供の就学促進のため、市内にある3つの学習機関と連携し、就学等に課題を抱える外国にルーツをもつ子供の学びの場を確保するとともに、公立学校や外国人学校等教育機関への就学につなげるために必要な支援を実施した。

■在籍数月別推移

佐鳴台教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就学前	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	2	2	10
小学生	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
中学生	2	4	4	4	4	5	5	3	3	4	4	3	45
学齢超過	1	1	1	1	1	2	2	2	3	4	4	3	25
合計	4	6	6	7	5	7	9	7	7	9	10	8	85

雄 踏 教 室 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就学前	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
小学生	6	7	10	6	6	7	5	6	6	6	3	3	71
中学生	2	3	4	4	4	3	0	0	2	2	1	1	26
学齢超過	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	10	14	10	10	10	6	6	9	9	4	4	100

駅 南 教 室 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就学前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学生	2	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	10
学齢超過	5	5	6	7	10	15	16	16	19	19	19	18	155
合計	7	6	6	7	10	16	17	17	20	20	20	19	165

■国籍別在籍実人数 (人)

国籍	佐鳴台教室	雄踏教室	駅南教室	合計
ブラジル	11	21	0	32
ベトナム	0	0	1	1
フィリピン	0	0	21	21
ペルー	2	0	0	2
中国	1	0	0	1
パキスタン	0	0	1	1
南アフリカ共和国	1	0	0	1
日本(外国ルーツ)	1	0	1	2
合計	16	21	24	61

■就学実績等 (人)

就学先等	佐鳴台教室	雄踏教室	駅南教室	合計
公立小中学校	4	4	1	9
公立高校等	2	0	10	12
外国人学校	0	9	0	9
その他	10	8	13	31
合計	16	21	24	61

※その他:他教室、就職、国内外転出、継続希望等

《主な就学先》

- ・浜松市立初生小学校、富塚小学校、篠原小学校、庄内学園
- ・浜松市立北星中学校、富塚中学校、亀玉中学校
- ・静岡県立浜松大平台高等学校、江之島高等学校、北高等学校、浜名高等学校、新居高等学校
- ・ムンド・デ・アレグリア学校、エスコーラ・アウカンセ

③ 外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業（市委託：国際課 「外国人学習支援センター事業」）

■（定住外国人若者向け）高校生のための就職応援セミナー 大平台高校（155人）

日時 6月26日（月）①10：45～12：30 ②19：35～21：15

会場 静岡県立浜松大平台高等学校

内容 ・講話 中岡ヘナト氏（ブラジル出身）
・企業紹介

成果 社会福祉法人聖隷福祉事業団、ぬくもりのおうち保育株式会社、有限会社船越造園
現在企業で活躍する講師の話から、国籍に関わらず努力する人が成功するという事を外国ルーツの学生に印象付けることができた。また、資格の重要性、就職活動のステップ、奨学金制度等について具体的にアンケートにコメントがあり、内容をしっかりと理解してもらえたことが分かった。企業の中に造園業という異業種を加えたことで、高校生になじみのない職業への興味を喚起できた。

■関係諸機関とのネットワーク会議

外国人青少年の支援に係る関係諸機関との連携体制を構築するため、ネットワーク会議とヒアリングを実施した。会議は、県西部高等学校定時制通信制副校長教頭会と連携して行った。

日時 9月5日（火）13：00～14：00

会場 静岡県立磐田南高等学校

参加 静岡県立新居高等学校定時制課程／静岡県立浜名高等学校定時制課程
静岡県立浜松大平台高等学校定時制課程／静岡県立浜松北高等学校定時制課程
静岡県立浜松工業高等学校定時制課程／静岡県立磐田南高等学校定時制課程
オブザーバー 浜松市国際課

内容 在籍する外国籍生徒の状況やキャリア支援の取組等に関する意見交換

■外国人学校へのヒアリング

日時 11月1日（水）、11月15日（水）、11月17日（金）

対象 ムンド デ アレグリア、エスコーラ アレグリア デ サベール、エスコーラ アウカンセ

内容 各校におけるキャリア支援の状況と課題

■若者向けキャリア研修

日時 2月10日（土）9：30～12：30

会場 クリエイト浜松 特別会議室（4階）

講師 野末友貴子（キャリアコンサルタント）

内容 講師によるキャリアデザインの必要性に関する講話の他、過去の自分を振り返ったり、自分らしさや強みを知ったりするワークを行った。

参加者 4人

■外国人学校生徒向けキャリア研修

日時 11月20日（月）10：10～11：00

会場 ムンド デ アレグリア

講師 鈴木孝明（公益社団法人浜松西青色申告会専務理事）

協力 浜松市税務総務課税制企画グループ

内容 税金に関する正しい知識や有意義なお金の使い方に関する講話を行った。1億円と同じ質量の紙束を持ち、お金の重さ（価値）を感じる体験も取り入れた。

参加者 33人

4. 多文化防災事業（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）

① 外国人防災リーダー養成研修

	日時・場所	内容	参加者
①	11月18日（土） 14:00～15:30 多文化共生センター	・災害時多言語支援センター、警戒レベル、防災リーダーの役割について ・マイタイムライン作成（大雨バージョン） ・防災リーダーによる防災クイズ	12
②	11月18日（土） 15:45～17:30 多文化共生センター	・ハザードマップを実際に使ってみよう！ ・防災リーダーの活動～過去・現在・将来～	13
③	12月2日（土） 14:00～16:00 多文化共生センター	・命を守る防災・減災セミナー ・修了式	16

② 情報収集と効果的な情報提供のための調査研究

東海北陸地域国際化協会のネットワーク等を中心に情報収集等を行った。

12月13日（水）（13:30～16:30）、名古屋国際センターにて、東海北陸圏内の地域国際化協会の防災に関する取り組みについて情報交換を行い、各協会およびネットワークとしての取り組みについて協議した際に、各協会の台風・大雨等の情報提供の対応について情報交換した。

③ モデルケースを設定した多文化防災訓練

日時 9月3日（日）9:00～12:00

会場 浜松市立篠原小学校体育館

参加者 ペルー出身住民5人、防災リーダー1人参加

内容 静岡県・浜松市総合防災訓練に合わせて実施

④ 災害時多言語支援センター設置訓練

日時 3月19日（火）9:30～11:00

会場 多文化共生センター

参加者 18人

⑤ 災害時に備えたネットワークの強化

■ペルー人コミュニティとのネットワーク強化

日時 6月16日（金）10:00～12:00

- 会 場 ペルー人レストラン ロボ・デ・マール
 参加者 17人（ブラジル人・ペルー人・フィリピン人等を雇用している派遣会社の担当者）
 内 容 ・ハザードマップの見方
 ・緊急速報・警報レベルなど
 ・災害時におけるメンタルヘルスについて
 ・意見交換

■ベトナム人コミュニティとのネットワーク強化

- 日 時 8月2日（水）18：00～20：00
 会 場 三方原協働センター
 参加者 26人（静岡県ベトナム人協会の教室に参加している親子）
 内 容 ・災害時多言語支援センターについて
 ・防災クイズ
 ・親子でワークショップ「NHKの防災ポケットカード」
 ・防災対策～自分にできること～

⑥ 災害・防災情報の提供

災害・防災等の緊急情報を、Facebook を通して、外国人市民に向け広く多言語により情報提供した。

月	内容	件数
4月	新型コロナウイルス感染症について	34
5月	新型コロナウイルス感染症について	8
6月	大雨による避難情報等	150
7月	なし	0
8月	台風注記喚起、新型コロナウイルス感染症について	2
9月	水難事故への注意喚起、防災訓練のお知らせ等 新型コロナウイルス感染症について	8
10月	新型コロナウイルス感染症について	3
11月	なし	0
12月	津波注意報	5
1月	防災訓練のお知らせ等	5
2月	なし	0
3月	なし	0

グローバル感覚に優れた人づくり

1. 地域共生事業（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）

① 各地域への個別支援（10自治会から10件の相談）

- 相談内容 ・翻訳要請（4件）
 ・情報提供等（5件）
 ・現場に赴き、外国人住民と日本人住民の相互理解の支援（1件）

② 地域共生自治会会議

浜松市内の自治会役員等の関係者を対象に、自治会活動において外国人住民と日本人住民との共生をどのように進めていくか、具体的に参考になるような講話を提供したり、自治会間の経験を学び合ったりする場を提供する。

「改めて、おとなりの外国人の来日事情・生活事業を知る」

日 時 7月22日(土) 14:00~16:00

会 場 多文化共生センター

参加者 30自治会 32人

内 容 講話「在住フィリピン人・在住ベトナム人の生活事情」
只尾ジェニファー (HICE フィリピン語相談員)
鈴木ヒエン (HICE ベトナム語相談員)

案内「通訳翻訳などの多文化共生センターのサービスについて」

小グループワークショップ フィリピン・ベトナム・ペルー・中国・インドネシア出身者から日本での暮らしについて話を聞く

2. 多様性を生かしたまちづくり事業 (市委託: 国際課 「多文化共生センター事業」)

① はままつ多文化共生 MONTH(月間) 事業

(1) 外国にルーツを持つ若者の写真展

静岡文化芸術大学の外国ルーツの学生がコロンビアで撮影した写真を展示。

期間: 10月19日(木)~10月31日(火) 会場 市役所1階ホール

10月31日(火)~3月31日 会場 多文化共生センター前展示パネル

(2) 実話を元にしたエピソード漫画のリーフレット印刷 (500部)・配布

昨年度の事業で制作した漫画を、リーフレット形式に印刷し、出前講座・視察対応等で配布した

(3) 在住外国人の多国籍化を表す15秒動画制作・放映

メイワン地下のデジタルサイネージに、HICE 相談員出演の動画を放映

掲出期間/11月1日~11月30日

掲出場所/メイワン地下道階段前柱 掲出画数/55インチ×2面

仕様/15秒/枠・3分ロール 掲出数/約7,560回(月)、放映時間 7:00~21:00

② 文化・スポーツ紹介 (10件)

Facebookにより浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。
合計10件

③ 地域活性化事業

■ (定住外国人若者向け) 高校生のための就職応援セミナー 大平台高校 (155人) ※再掲

日 時 6月26日(月) ①10:45~12:30 ②19:35~21:15

会 場 静岡県立浜松大平台高等学校

内 容 ・講話 中岡ヘナト氏 (ブラジル出身)
・企業紹介

社会福祉法人聖隷福祉事業団、ぬくもりのおうち保育株式会社、有限会社船越造園
成 果 現在企業で活躍する講師の話から、国籍に関わらず努力する人が成功するということを外国ルーツの学生に印象付けることができた。また、資格の重要性、就職活動のステップ、奨学金制度等について具体的にアンケートにコメントがあり、内容をしっかりと理解してもらえたことが分かった。企業の中に造園業という異業種を加えたことで、高校生になじみのない職業への興味を喚起できた。

■異文化理解と経営戦略セミナー ～外国人材が辞めない職場～ (79人)

日時 1月25日(木) 14:00～16:30

会場 クリエイト浜松2階ホール

参加者 外国人材の雇用に関心のある浜松市内の企業等 79人

内容 基調講演:「企業を救う異文化適応力 CQ」

講師:宮森千嘉子氏(アイディールリーダーズ株式会社CCO)

トークセッション:「隣の職場はどうしてる?～浜松市内企業の実践と試行錯誤～」

企業担当者:株式会社ヤタロー/株式会社モアソンジャパン

コメンテーター:宮森千嘉子氏

ファシリテーター:高畑幸氏(静岡県立大学)

■(外国ルーツの若者向け)「コミュニティ・オーガナイズング・ワークショップ」(20人)

日時 1月28日(日) 10:00～17:00

会場 多文化共生センター

参加者 20人

内容 「ストーリーオブ・セルフ～自分の想いを伝える方法」

講師 中村果南子(コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン)

④インターナショナル・フェスティバルの運営(市負担金:国際課)

浜松多文化創造活動促進事業実行委員会事務局として運営。

日時 10月29日(日) 10:00～18:00

会場 浜松市ギャラリーモール ソラモ

来場者 約9600人

内容 よさこい 麗 DANCIN(日本)

ブラジルの子どもたちによるダンス(LAPIS DE COR, COLEGIO ALTERNATIVA, ESCOLA ALEGRIA DE SABER)

カポエイラ BARAUNA(ブラジル)

フォホー BRASIL A2(ブラジル)

ダンス NPO法人フィリピンナガイサ(フィリピン)

ダンス 3939BAND(ベトナム)

ペルーの子どもたちによるパフォーマンス(YACHAY)

マリネラダンス AL RITMO DE MI CORAZON(ペルー)

フォルクローレ GRUPO ILLAY JAPON(ペルー)

舞踊 浜松インドネシア友好協会(インドネシア)

歌 HAMKA(インドネシア)

ベリーダンス サアードベリーダンススタジオ アマテラス

サンバ GRUPO BRASILDADE

阿波踊り しらさぎ連

⑤ICCシンポジウム2023の運営(市負担金:国際課)

“アートを活かしたゆる～いまちづくり” —きく・つなぐ・ひらく—

浜松多文化創造活動促進事業実行委員会事務局として運営。

日時 9月18日(月・祝) 13:30～17:15

会場 アクトシティ浜松 コンgressセンター43・44会議室

参加者 40人

内 容 インターカルチュラル・シティの考え方を基に、アート活動や文化芸術を通じた在住外国人との共生の取り組みにより起こった変化等について、海外や日本の都市の先行事例を通じて考えた。

【事例紹介】

モデレーター：関 鎮京（ミン ジンキョン）北海道教育大学准教授

事例提供者：

南田 明美（みなみだ あけみ）静岡文化芸術大学講師

政府から市民の手へ～シンガポールのコミュニティ・アートから見る文化的・社会的統合～

楊 淳婷（ヤン チュンティン）東京藝術大学大学院特任助教、立教大学兼任講師

影絵芝居を通して多様な声を聞く―東京芸術劇場のリサーチプログラムについて―

山口 祐香（やまぐち ゆか）神戸大学 日本学術振興会特別研究員

存在と歴史の可視化を目指して：在日コリアンとミュージアム

南田 明美（みなみだ あけみ）静岡文化芸術大学講師

街に憩える広場をつくる：兵庫県小野市「ワークショップ！にほんごであそぼう」を事例に

鈴木 恵梨香（すずき えりか）公益財団法人浜松国際交流協会

国際交流協会とアートセンターの協働から生まれた取り組みとその可能性

【パネルディスカッション】

「在住外国人・移住者が安心して生活できるアート活動・文化芸術の場を通じたまちづくり」

⑥浜松市外国人材活躍宣言事業所認定事業（市委託：国際課）

■認定事業

外国人材の活躍推進に積極的に取り組んでいる事業所を対象に、チェックリスト等に基づき審査をし、優良事業所として認定した。認定された事業所は、浜松市公式ホームページにおいて公表されるとともに、浜松市の発注する建設工事、物品購入、業務委託において優遇措置を受けられる。また、認定マークの使用が可能になる。

認定事業所数 23 事業所(更新 18 社、新規 5 社)

認定事業所名 更新：ムラマツグループ・株式会社静岡県セイブ自動車学校・株式会社マルハナ・株式会社丸八アセットマネージメント・山崎電機産業株式会社・遠州信用金庫・社会福祉法人天竜厚生会・株式会社アイケア・株式会社ソミック石川・社会福祉法人 慈悲庵・MPP KOMATSU 株式会社・社会福祉法人 慶成会・遠州鉄道株式会社・株式会社モアソンジャパン・株式会社マル善トーカイ・有限会社東洋インフラテック・株式会社共同・株式会社小松組
新規：株式会社中村組・有限会社宝翔・株式会社小松工業・淳和工業株式会社・シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社浜松営業所

授与式 10月13日（金）10:00～10:30 会場：市役所秘書課応接室

■アドバイザー派遣事業

- ・認定事業所からの依頼による多文化共生分野の助言・サポート業務 0 社（0 回）
- ・応募を検討する事業所への外国人材雇用等のアドバイザー派遣業務 2 社（3 回）

3. グローバル人材の育成と活用

① 地球人教育出前講座及びコーディネート(市委託：国際課 「多文化共生センター事業」)

■学校等への派遣

学校名等	参加者	登録ボランティア等	専門職員
浜松市立芳川北小学校	102	国際理解教育専門家 1名	
浜松市立芳川北小学校	67	インドネシア出身者 1名 登録ボランティア 1名	
静岡文化芸術大学	146		多文化共生センター 専門職員 1名
ルネサンス デザイン・美容 専門学校	41	シンガポール専門家 1名	
ルネサンス デザイン・美容 専門学校	41		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松医科大学大学院助産学	5		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69		多文化共生センター専門職 員 2名(ブラジル出身者含む)
浜松北高校定時制	29		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松北高校定時制	29		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立佐鳴台中学校	91		多文化共生センター 専門職員 1名
静岡県立浜松湖北高校	12	中国出身者 1名	
静岡県立浜松城北工業高校	6		多文化共生センター専門 職員 1名(フィリピン出身者)
浜松市教育研究会 中学社会科教育部	30	国際理解教育専門家 1名	
浜松市立看護専門学校	69	インドネシア出身者 1名	多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69	フィリピン出身者 1名	多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69	中国出身者 1名	多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立看護専門学校	69		多文化共生センター 専門職員 1名
浜松市立瑞穂小学校	109	ブラジル出身者 1名	
静岡県立新居高校定時制	60	ブラジル出身者 2名	
静岡県立浜北西高校	26		多文化共生センター 専門職員 1名
静岡県立浜名高校	376名	登録ボランティア 1名	
浜松開誠館高校	30		多文化共生センター

			専門職員 1 名
浜北国際交流協会	100		外国人学習支援センター 専門職員 1 名
浜北区内野台自治会	50		外国人学習支援センター 専門職員 1 名
常葉大学（経営学部）	64		外国人学習支援センター 専門職員 1 名
湖西国際交流協会	20		外国人学習支援センター 専門職員 1 名
公益財団法人東京つながり創生財団	43		外国人学習支援センター 専門職員 1 名
浜松日本語学院(2回)	28		外国人学習支援センター 専門職員 1 名

■学校・団体等からの訪問受け入れ

学校名・団体名	訪問先・期間		訪問者数
	多文化共生センター	外国人学習支援センター	
龍谷大学	1 日		3 人
磐田市立城山中	1 日		4 人
静岡大学浜松キャンパス	1 日		33 人
浜松磐田信用金庫（浜松学院大）	1 日		1 人
愛知県知立市議会	1 日		8 人
クラーク記念国際高校	1 日		6 人
絵本塾 ラウラの家	1 日		1 人
浜松創生研鑽会	1 日		3 人
法政大学	1 日		4 人
浜松学院中学校	1 日		25 人
静岡大学情報学部情報社会学科	1 日		1 人
静岡県立静岡中央高校	2 日		1 人
静岡県立掛川特別支援学校	2 日		1 人
愛知教育大学	2 日		2 人
東広島市役所市民生活課国際交流係	1 日		2 人
浜松市立高校 放送部	2 日		2 人
浜松医科大学	1 日		9 人
京都大学大学院医学研究科	1 日		1 人
東洋大学国際学部	1 日		8 人
静岡県立浜北西高校	1 日		5 人
静岡大学教育学部附属浜松中学校	2 日		1 人
中央大学 FLP 国際協力ゼミ	1 日		11 人
NPO 法人青少年自立援助センター	1 日		1 人
筑波大学	1 日		1 人
国連人権高等弁務官事務所	1 日		3 人
福岡県国際交流センター	1 日		2 人
中央大学 山田ゼミ	1 日		7 人
出雲市	1 日		3 人
浜松市立富塚中学校	1 日		3 人
熊本県議会	1 日		25 人
東京外国語大学言語文化学部	1 日		1 人

静岡県立浜松西高校中等部	1日		4人
静岡文化芸術大学 ポルトガル語履修者	1日		3人
静岡文化芸術大学芸術文化学科	1日		4人
株式会社国際開発センター	1日		4人
中央大学 研究チーム	1日		3人
静岡県立浜松西高校中等部		1日	3人
浜松いわた信用金庫		1日	2人
大成高等学校（愛知県一宮市）		1日	1人
東洋大学国際関係学部		1日	3人
群馬県太田市		1日	2人
浜松市トライアル逆参勤交代		1日	14人
NPO 法人青少年自立援助センター		1日	1人
筑波大学大学院		1日	1人
静岡文化芸術大学		1日	1人
公益財団法人鳥取県国際交流財団		1日	1人
福岡市		1日	3人
熊本県議会地域活力創生特別委員会		1日	25人
中央大学人文科学研究所		1日	2人
愛知県立大学大学院		1日	5人
合計 50 団体	延べ 55 日		合計 260 人

② グローバル人材セミナー（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）（50人）

「なぜ日本の人はゾウを食べないのですか？」

～食べものの多様性から持続可能な世界のあり方を考える～

日時 10月15日（日）10：30～12：30

場所 クリエイト浜松1階ふれあい広場

参加者 50人

内容 講師 武田淳（静岡文化芸術大学准教授）

「熱帯の森の生活・フィールドワークを疑似体験！」

パプアニューギニアの狩猟採集民の生活から職の多様性を考える

「忘れられた食べもの「どんぐり」を食べて考える！」

なぜ現代は職の多様性が失われたのか？

（米村直樹・山内小百合 協力）

③国際理解教育講座（自主事業）（65人）

■国際理解ワークショップ講座

世界の戦争・内戦から考える～日常生活で私たちにできる「平和」への第一歩とは？

日時 令和5年8月6日（日）13：30～16：00

場所 浜松市多文化共生センター

主催 はままつ国際理解教育ネット

講師 はままつ国際理解教育ネット 三田景子

参加者 12名（中学生、大学生、会社員、教員、JICA OV等）

補助者 はままつ国際理解教育ネットメンバー 6名

内容 戦争や紛争について考え、日常生活でできる平和について考えるワークショップ

(1)ビンゴ式、キーワード式自己紹介

(2)「りんごの国」の物語を読んで「中学生にできること」を考える

(3)ポーランドでウクライナ支援中の坂本龍太郎氏のメッセージ動画を見る

■「国際理解教育ファシリテーター養成講座」

場 所 浜松市多文化共生センター

主 催 はままつ国際理解教育ネット

共 催 JICA 中部

テーマ 「ゼロから学べる国際理解教育ワークショップ術」

参加者 高校生、大学生、中学教員、高校教員、保育士、会社員 等

内 容 多文化共生、貧困、環境問題などの今日的課題を通じた国際理解教育に関する概要を学ぶとともに、ファシリテーターとしてのスキルの取得を目指す連続講座。

	日 時	内 容	講 師	受 講 者
入門	7月23日(日) 10:00~17:00	世界と浜松の現状を「知る・考える」	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一	21人
入門	8月27日(日) 10:00~17:00	世界規模の課題(うなぎで考える食と環境/コーヒーで考えるフェアトレード)	はままつ国際理解教育ネット 飯田浩敬、瀬戸誠、鴻池俊輔	15人
入門	9月24日(日) 10:00~17:00	在住外国人との共生について一移民・難民受け入れ、多文化共生一	はままつ理解教育ネット 河合良太、今村智子、中尾亜弥子	13人
実践	11月19日(日) 9:30~12:30	リフレクションの手法でワークショップを考える	はままつ国際理解教育ネット 河合良太	2人
実践	12月3日(日) 10:00~17:00	プログラム作りとアクティビティを実践する	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一	2人

④第14回はままつグローバルフェア(自主事業)

目 的 広く市民(特に次世代を担う子ども・若者)に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての一步の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。

日 時 令和6年2月11日(日)

場 所 クリエート浜松

来場者 2,535人(延べ)

会場	ブース名	内 容
ふれあい広場	ワールドマーケット	海外の雑貨や食品、フェアトレードグッズの販売
	入国審査官体験	名古屋入管による入国審査官体験ブース
創造活動室	マリマリインドネシア	浜松インドネシア友好協会によるインドネシア文化体験ブース
	世界の交通安全事情	浜松市中央区まちづくり推進課によるブース
中庭	世界の料理	市内外国料理店による飲食物の販売
21 講座室	国際理解教育ワークショップ	はままつ国際理解教育ネット提供によるワークショップ
22 講座室	フィリピン語スピーコン	NPO 法人フィリピンナガイサによるフィリピン語スピーチコンテストおよびフィリピン文化紹介展示
アトリエ	日本語教室発表会	常葉大学と HICE で連携した天竜 ICT クラスの成果発表会
多文化共生センター	生活相談会	名古屋入管による外国人向け生活相談会

スタジオ	海外文化体験	ムスリムグループ HAMKA によるインドネシア・バングラデシュ文化紹介・体験
51 会議室	文化体験	JICA 静岡県 OB 会によるウクライナ展示、文化体験等
53 会議室	Korekara Buddy	HICE これからバディ企画による「これから文化祭」書道体験
和室	練り切り&抹茶体験	ヤミーデコによる練り切りおよび抹茶体験

⑤外国人コミュニティ・ライフステージ講座（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）（215 人）

内 容 国籍別・言語別にそれぞれのニーズに応じてテーマを設定し、各言語によるセミナーを行った。

	日時・場所	内容	参加者
ペルー人向け	4月16日（日） 10:00～16:30 多文化共生センター	健康と美のエクスポ ・老後に備えた健康維持のための食事 ・メンタルヘルス ・自己啓発 など	134 人
ブラジル人向け	8月27日（日） 10月15日（日） 12月10日（日） 10:00～12:30 ブラジル人スポーツジム「X Fitness Gym」	・老後も元気で過ごすための筋肉づくりについて ・ライフステージに合わせたメンタルヘルスについて ・いつでも若々しくいられる自分のためのヒント	72 人
フィリピン人向け	9月17日（日） 14:00～16:00 多文化共生センター	・日本で子育て・老後に必要な資金 ・年休育休について ・日本とフィリピンの年金協定について	9 人

⑥ 多文化体験・交流事業（市委託：国際課「外国人学習支援センター事業」）（109 人）（前年度 109 人）

外国人市民と日本人市民が相互の文化を理解し、市民同士の交流を深める体験講座。

■多文化体験（受講者数 延べ 109 人）

	日程	コース	講師	参加者
1	5月24日（水） 9:00～12:30	校外学習 「(株)ヤマハ イノベーションロード」	With U-Net	22 人
2	7月13日（水） 10:00～12:30	防災訓練	嶋野安沙美 （浜松国際交流協会） 西消防署隊員 （浜松市西消防署）	26 人
3	11月10日（金） 9:15～12:30	校外学習 「松韻亭と浜松城公園に行こう！」	With U-Net	33 人

4	1月16日(水) 10:00~12:30	防災訓練	嶋野安沙美 (浜松国際交流協会)	28人
合計				109人

⑦ ブリッジビルダー育成 (43人)

「実務セミナー 在住ムスリム事情」

日 時 7月11日(火)13:15~16:30

会 場 対面およびオンライン開催 (ZOOM)

参加者: 43人

(社会福祉協議会職員、市教委、市職員など外国人支援に職務上の関わりがあり、地域コミュニティにおいても外国人住民との相互理解を進める人材となりうる人)

内 容 ・在住ムスリム事情」

講師: 大橋充人 (愛知県立大学客員協働研究員/多文化共生マネージャー)

・「やさしい日本語」ワークショップ

講師: 鈴木由美恵 (HICE)

4. 国際交流・国際理解事業

1) 外国語講座

①国際交流のための外国語講座 (自主事業) (51人) (前年度48人)

■国際交流のためのベトナム語講座: 初級 オンライン (全12回)

講 師 坂井亜美

日 程 火曜日 19:00~20:30

第1期	5月16日~8月1日	5人	受講者 合計5人
-----	------------	----	-------------

■国際交流のためのインドネシア語講座: 初級 (全12回)

講 師 川越レニ

日 程 火曜日 19:00~20:30

第2期のみ	9月12日~11月28日	8人	受講者 合計8人
-------	--------------	----	-------------

■国際交流のためのポルトガル語講座: 初級 (全12回・第3期8回)

講 師 柳澤クリスティーナ

日 程 木曜日 19:00~20:30

第1期	5月18日~8月3日	8人	受講者 合計22人
第2期	9月14日~12月7日	8人	
第3期	1月11日~3月7日	6人	

■国際交流のためのタイ語講座: 初級 (全12回)

講 師 植木チュダー

日 程 金曜日 19:00~20:30

第1期	5月18日~8月3日	10人	受講者 合計16人
第2期	9月14日~12月7日	6人	

2) 交流イベント (自主事業)

① 世界を知ろう！異文化理解講座（61人）

会 場 多文化共生センター

日程	内容	参加者
6月25日（日）	これからバディ・マラウイ（マラウイ）	39人
7月31日（日）	A very KorekaraBuddy Peru Christmas（ペルー）	22人
合計		61人

② サステナブル・アクション

日 時 11月4日（土）10：00～12：00

会 場 クリエイト浜松クッキングルーム

参加者 7人

内 容 公共施設であるクリエート浜松をサステナブルにする取り組みを行う。2023年度はコミュニティガーデンを取り入れようとしたが難しかったため、コンポストづくりを行った。

- ・「はままつサステナブル・コミュニティ」の活動紹介
- ・収穫したポップコーンを炒って食べる
- ・コンポストづくり
- ・へちまたわしづくり

③ 踊ってみよう！世界のダンス体験（全4回）（64人）

4か国それぞれの講師が、ダンスと共に文化紹介を行った。健康づくりのためのエクササイズと位置付けることで、幅広い年齢層の定住、永住外国人と日本人が交流できるきっかけづくりの場となった。

日 時 4月15日（土）ゆる気功（中国）

4月27日（木）ラテンリズムでエクササイズ（ブラジル）

5月13日（土）ペルーの健康体操（ペルー）

5月27日（土）インドのボリウッド体験（インド）

場 所 多文化共生センター、クリエート浜松スタジオ、創造活動室

参加者 64人

共 催 JICA 浜松デスク

④ 踊ってみよう！世界のダンス体験 Part2（全3回）（49人）

4月に実施した世界のダンス講座の再開を望む声が多かったため中部協働センターを共催で好評であったブラジル、ペルーのダンス講座体験第2弾を行った。

日 時 8月3日（木）ラテンリズムでエクササイズ（ブラジル）

9月9日（土）ペルーの健康体操（ペルー）

9月30日（土）ペルーの健康体操（ペルー）

場 所 クリエイト浜松スタジオ、創造活動室

参加者 49人

共 催 中部協働センター

5. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）

① HICE ボランティアバンクの運営（3,000人）（前年度 2,921人）

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

＜ボランティアバンク登録人数＞ 6区分

出前講師ボランティア	244人
通訳・翻訳ボランティア	587人
日本語学習ボランティア	619人
ホームステイボランティア	345人
※情報提供ボランティア/バディボランティア	222人※2022年8月1日よりバディボランティアに移行。
イベントボランティア	983人

合計： 延べ3,000人

② バディ・ボランティア活動「これからバディ」（409人）

概要 地域で暮らす外国人日本人住民がバディ（仲間）としてゆるくつながれる場づくりをして、HICE ボランティアが企画に参画しながら交流活動を行った。季節の行事として地域に出向くほか、何もなくても定期的に集まれる場所として「バディルーム」を月1回行った。また、福祉団体など共にイベントを行い、異なるコミュニティとの交流の幅を広げた。

共催 JICA 浜松デスク

参加者 留学生、技能実習生、企業で働いている人、日本人の家族などで新しく浜松市に住み始めた人が主に参加。国籍も多様で、インドネシア、ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、スリランカ、バングラデシュ、インド、トルコ、アイルランドなど様々。

内容 1. バディルーム（年12回）（224人）

2. 季節の行事

- ・浜松まつりに行こう 5月3日（水） 28人
- ・ラップアップパーティ 9月2日（土） 23人
- ・日本料理体験 11月5日（日） 19人
- ・これからちまたパーティ餅つき体験 1月13日（土） 115人
（共催：NPO法人クリエイティブサポートレッツ）

また、バドミントン等活動する有志のグループに参加（4回）

6. 担い手の支援：国際交流活動支援事業

① 多文化共生・国際交流推進事業費助成金の交付（市補助金：国際課）（申請28件確定25件）（前年度21件）

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費助成金を交付した。

(円)

NO	団体名	事業名	交付確定額
1	NPO法人ARACE	ARACE希望教室事業	426,000
2	(IIEC)International Institute of Education and Culture	成長プロジェクトIー継承語としてのポルトガル語	303,000
3	一般社団法人カレッジインパクトジャパン (NPO法人わたぼうしブランドデザインの事業継承)	プロジェクト・セメンチーニャ	55,000
4	KSC子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	470,000
5	GCC中国語教室	GCC中国語教室	500,000
6	そらの会	放課後そらの会	300,000
7	中国文化交流会	中国人のための日本語勉強会	153,000

8	Don Bosco 学習支援グループ	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	500,000
9	NPO法人日本語教育ボランティア協会	ジャボラ日本語教室	400,000
10	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	中学校放課後学習支援教室 アイスプラネット	143,000
11	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	外国につながりをもつ子供のための就学前支援教室「つくしっこ」	79,000
12	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	未来へはばたけ！ 「まつっこ」カミズ計画2023	175,000
13	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	コレジオ アルテルナチーバ「日本語事業」	263,000
14	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご日曜教室」	370,000
15	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	285,000
16	三ヶ日日本語教室	三ヶ日日本語教室	111,000
17	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育と学習支援	206,000
18	YACHAY（ヤチャイ）	スペイン語 読み・書き・会話教室YACHAY	500,000
19	アソシエーション・シビル・ゲステイオン・シウダダナ	浜松市スペイン語圏健康と医療セミナーと相談会2023年	500,000
20	HELP YOU PROJECT 浜松	多国籍クリニック検索アプリ（浜松市 ver.）の開発・公開	401,000
21	在浜松ブラジル総領事館市民評議会	BRAZILIAN DAY HAMAMATSU 2023	300,000
22	ハートグローバル浜松実行委員会	ハートグローバルジャパントア-2023 夏 in 浜松	300,000
23	浜松インドネシア友好協会	インドネシア・フェスティバル in 浜松 2023	200,000
24	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	200,000
25	NPO法人 楽舎	日本人とベトナム人との会食と交流会	117,000
合計			7,257,000

②天竜地域事業

■日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）

期 間 4月8日～3月24日 日曜日 10:00～11:30 全48回

場 所 二俣協働センター他（天竜区二俣町）

内 容 生活に役立つ日常会話

受講者 登録者数 43人 参加者数 延べ652人

国 籍 インドネシア、フィリピン、ベトナム、中国、タイ、ブラジル

■英会話教室（自主事業）

場 所 二俣協働センター

講 師 フォーシーズンズ外語学院より派遣

コース	前期	参加者	後期	参加者
初級 (月) 10:00～11:30	4月17日～8月21日 全12回	4人	10月16日～2月19日 全12回	4人
合計 8人				

■協働センターでのふれあいまつり参加（自主事業）

光明ふれあいセンター、二俣協働センターにて開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。

③セミナー・ルームの活用（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）（8,133人）

浜松市多文化共生センターのセミナー・ルームをオープンルームとして一般に公開するとともに、講座・セミナー等の事業活動に利用した。

年間利用者数 8,133人

④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）

■多文化共生活動団体への支援及び助言

- ・国際理解教育活動を進める市民グループ（はままつ国際理解教育ネット）の活動支援
国際理解教育の担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」（対面）の開催を支援。（5回）
7月23日（日）、8月27日（日）、9月24日（日）、11月19日（日）、12月3日（日）
- ・フェアトレード推進の市民団体「はままつフェアトレードタウンネットワーク」の活動支援
フェアトレードを推進する浜松市市民団体の定例ミーティングの開催、フェアトレードマーケットの開催支援。（1回）
5月21日（日）
- ・外国にルーツを持つ若者グループ COLORS 活動支援
浜松西ロータリークラブから頂いた寄附金を活用し、COLORS のホームページを新規構築。制作や原稿集め、記事更新など全ての作業をメンバーが担当し、外国にルーツを持つ若者社会人の視点から、中高生に向けたメッセージやライフストーリーなどを掲載。メンバーへの講演依頼等を問い合わせフォームから直接連絡が取れるようにし、自立した活動が行える体制のきっかけとなった。

■多文化共生活動者ネットワーク化事業 「補助金説明会&国際交流・多文化共生情報交換会」

日時 1月13日（土）14：00～16：00

会場 多文化共生センター

参加者 12団体18人

7. 情報収集・提供事業

①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。

発行部数：日本語版1,900部 ポルトガル語版2,200部 英語900部 合計5,000部

発行回数：年4回発行

②はままつ多文化共生・国際交流ポータルサイト HAMAPO の運営（市委託：国際課・自主事業）

ホームページアクセス合計数 238,007件

③Facebook の運用（市委託：国際課・自主事業）

ポルトガル語、日本語・英語2言語併記による Facebook を運用。その他、ベトナム語、スペイン語、フィリピン語、スペイン語による「Consultation Hamamatsu」Facebook も別途運用し、多言語による情報提供を行った。

④Instagram の運用（市委託：国際課・自主事業）

HICE の公式アカウント「hice_hamamatsu」を毎週2回の頻度で更新した。投稿内容は多文化共生センター事業、外国人学習支援センター事業、HICE 自主事業の3種類とし、投稿記事や画像作成は、ターゲットとなる若者当事者（大学生2人、内1人はブラジルルーツ）が担当した。2023年

4月時点で471人だったフォロワー数は、2024年3月時点で738人まで増加した

⑤HICEinfoメールによる情報配信（自主事業）

会員・ボランティア等に情報を配信。年間20回配信。

配信先 3,699人

⑥情報カウンターの運営（市委託：国際課 「多文化共生センター事業」）（2,432人）

外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供した。コロナ禍で対面での訪問は減少傾向。

延べ提供数	外国人	日本人	合計
	1,388人	1,044人	2,432人

事業報告の付属明細書

令和5年（2023）年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款8条（2）に規定する事業報告の付属明細書は作成しない。